

ばく りゅう
麥粒

2019. Winter

麦粒 / NO. 132

発行・キリスト教センター

チャペル・ブックレット

宗教部では今までの「宗教講演会」のお話をブックレットにまとめ、発行しています。無料でどなたにでも差し上げますので、ご希望の方は、キリスト教センターへどうぞ。チャペルにも置いてあります。

- No.1. 「経済の論理と人間の論理」(塩沢 美代子)
- No.2. 「心を問い続けて」(谷 昌恒)
- No.3. 「国際化時代におけるキリスト教の使命」(徐 洗善)
- No.4. 「激動化する現代史と神のみことば」(池 明観)
- No.5. 「生きることの感動」(金 纒)
- No.6. 「生きるよろこび」(村田 佳寿子)
- No.7. 「心を支えているもの」(山本 将信)
- No.8. 「主の愛この眼にありて」(武岡 洋治)
- No.9. 「日本におけるキリスト教主義大学の使命」(池 明観)
- No.10. 「いのちを支えるホスピスケア」(柏木 哲夫)
- No.11. 「天と地のひびき」(小塩 節)
- No.12. 「絵本のちから」(松居 直)
- No.13. 「ハイジ、クララは歩かなくてはいけないの？
—こどもの物語と聖書に見られるくしょうがい者>差別—」
(荒井 英子)
- No.14. 「お父さん、僕はなにに人？ —間 (はざま) から読む聖書—」
(金 永秀)
- No.15. 「人権・生命の尊厳—野宿生活者の現場から—」(松本 普)
- No.16. 「地球に、そして日本に生まれて今ここにいる」(太田 信吉)
- No.17. 「メイク・ア・ウィッシュ〜夢の応援団」(原 順子)
- No.18. 「人間関係を生きる知恵」(島 しづ子)
- No.19. 「命のことば」(水谷 誠)
- No.20. 「宗教が戦争の原因？—一神教がアブナイ？」(桃井 和馬)
- No.21. 「福田敬太郎—神に向き合った生涯」(小野 静雄)
- No.22. 「F.C. クラインと「敬神愛人」」(黒柳 志仁)

目 次

- なりたい自分になる。…………… 杉浦 礼子 (3)
- 科学の革新と信念…………… 吉田 淳 (7)
- しかし、回り込まれてしまった! (・・;) … 柳本 伸良 (12)



なりたい自分になる。

杉 浦 礼 子

私は商学部で、イノベーション論、ロジスティックスのほか、流通関係科目を主に担当しております。それらの科目に加えて、ビジネスマナーやホスピタリティ論の科目も担当しております。

皆さまは、「ホスピタリティ」という言葉、どのように捉えていますか。ホスピタリティ溢れる経営で成功している企業の一つにザ・リッツカールトンがあります。このホテルの企業理念には「紳士淑女にお仕える我々も紳士淑女です」という文言が掲げられています。一般的には、「ホテル業＝サービス業」と認識されますが、サービスという「主」と「従」という縦の関係となるため、ザ・リッツカールトンにおいては、サービスではなくホスピタリティを大切にしていることを、この文言で発信しています。「あなたもわたしも紳士であり淑女である」、つまりホテルで働く人はお客様と対等な関係でおもてなしを提供し、お客様が何を望んでいるのかを感じ取り、一つひとつ応えていくことで、価値の提供を創造し、選ばれ、そして勝ち残る。そのようなホスピタリティを大切にするホテル経営が評価を得ているのです。

私が担当しているホスピタリティ論では、ある本の感想をレポート課題としています。その本を、まずご紹介したいと思

います。推奨したい本は、『鏡の法則』という本です。この『鏡の法則』は、発行されたのが2006年、野口嘉則さんの作です。作者の思いで、ウェブにおいて無料で全文読めるようになっておりますし、読みやすい本でもありますので、是非、お読みいただきたいと思います。この『鏡の法則』と私が出会ったきっかけは何であったかという、テレビ番組で「絶対に泣けるこの一冊」として紹介されていたのを見たことに始まります。早速、購入し読み、そして泣きました。

皆さん、最近、泣きましたか。私自身、医学的な分野の専門ではないので、泣くことの効果にはどのようなものがあるのかをネット検索してみました。よく耳にする「ストレスを軽減できる」という効果が出てきましたが、それだけではなく、「ストレスに対しても強くなる」、「美容にも効果がある」などの記述も出てきました。泣いて涙腺を綺麗にすると、様々な効果が期待できるようです。私がこの本を読みたかった時、ストレスを感じていたのかどうか、あまり記憶はしていませんが、「やる気を出すことができる」という効果もあるそうなので、「何か頑張りたいな、リセットしたいな、前向きになりたいな」って思ったときには、何か涙を流すことができそうな本を読んでいただく

良いようです。

この本をホスピタリティ論で推奨しているのは、自分の心の中に潜んでいる、自分では自覚していないかもしれない、相手のことを思いやるホスピタリティ・マインドを見つけるきっかけになればと願っているからです。そして、私が今日お越しいただいた皆さんに奨励したいと思っている二つの事柄をお話しします。まず1つ目は、自分の周りにある外部要因と、自分に内在している内部要因、この二つの視点から、今一度、自分自身を振り返っていただくことです。そうすることが、今日のタイトルにもなっている「なりたい自分になる。」ための近道なのではないかと思うからです。そして2つ目は、なりたい自分になるという意識を強く持っていただくことです。

自分自身の今に何の不安も感じていない、すべてにおいてハッピーで、悩みは一切ありませんという方は、きっと少ないのではないかなと思います。

この『鏡の法則』は実話に基づいて書かれています。どういう法則なのかを本のストーリーとともに説明したいと思えます。主人公である母親が、自分の子どもに友達ができないし、いじめられているようだ…。子どもに聞いても、自分に対してそういった悩みを一切打ち明けてくれない…。けれども、保護者の方や地域の方から、「あなたのところの息子さん、すごくいじめられているよ」と聞いてすごく悩む、というところからこの本はスタート

します。そして、主人公の母親は夫の知り合いであるコンサルタントを紹介してもらい相談します。コンサルタントに事情を説明したところ、母親はコンサルタントに「子どもがいじめられているのは、あなたに原因があるのではないか」と言われてしまいます。原因を探るための会話がなされる過程で、「ご主人のことを尊敬していますか？」と問われます。正直、夫のことはどちらかというところも、100%信頼を寄せていて、100%愛しているとは言い難い夫婦関係にあったそうです。「では、なぜご主人のことを100%信頼でき愛せないのか」と問われます。自分と向き合い考えを深めていくうちに、どうも、原因は自分自身の父親に対する幼少期からの気持ち、これが原因になっているのではないかと考えるようになります。そこで、コンサルタントから、「父親に対する今までの思い出や、父親に対して悪いなと思っていることを、とにかくノートにいっぱい書いてください」、と言われ、母親はいっぱい書き出します。

今度は「それを自分の気持ちで伝えなくても良いので、ノートに書いてあることを、お父さんに電話でただ読んで伝えてください」と言われます。指示されたとおりにすると、お父さんが泣き崩れてしまったそうです。それを見ていた主人公である母親のお母さんに「あんた、お父さんに何ひどいこと言ったの？」と言われほど、お父さんは泣いたそうです。書き出した言葉をただ伝えただけで、お父さ

んの気持ちが動かされ、お父さんは娘である母親に心の内を話すことに繋がりました。母親はお父さんの本心を知ることができたおかげで長年のわだかまりが取れ、心の中の全てのざわめきを洗い流すことができました。そして、自分は今まで人に対する接し方において何か間違えていたのではないかと、思えるようになりました。そのように思えるようになったことで、次の課題である夫に対しての自分、自分自身が夫にどのような言葉を遣い、どのような態度・表情で接していたのかについて、自分を見直すことに繋がります。夫に対して「申し訳ないな」という気持ちが芽生え、そして夫婦関係も変わり、それを見ていた息子さんが、母親に「実はね、僕、こういうことにあるんだ」と心を開いて話してくれるように変化します。母親に素直に話せるようになった息子さんは、お友だちができるようになった…。とプラスのスパイラルに変わっていくストーリー展開です。

この本の中では、「必然の法則」ということも書かれています。何か自分に困難なことがあったとしても、それは越えられる課題であり、越えなければならない課題だから必然的に自分に降りかかってくるんだ、と書かれています。学生の皆さんは、人間関係で困ったり、つらいことがあったりすることもあろうかと思えます。しかし、高い壁だなと思っても、そのときに一度、「自分にこの課題が降りかかったということは、自分が今、越えなければいけない課題だし、越えた先には

きっと素晴らしいことがあるから、必然に起こった壁なんだ。じゃあ、どこから変えていこうか」と考え、名古屋学院大学でのこの奨励の時間のことを思い出し、壁に向き合ってくれたら非常に嬉しく思います。

コーチングのお話をするとき、「相手」と「過去」は変えることはできませんが、「自分」が変わることによって「未来」を変えることができる、という話をします。まさにこの「鏡の法則」というのはそういうことだと思います。欲しても、他人は自分に対して思うように変わってくれない。けれども、「皆さんが関わり方を変えることによって、周りの人たちの皆さんを見る目が変わり、接し方が変わり、そのことで未来を変えていくことができる」、ということを皆さんに伝えたいと思いました。

本学のこのチャペルの後ろにも掲げられている『敬神愛人』という言葉ですが、皆さんが人のことを敬ったら、人から敬われる人になれるし、皆さんが人を愛せるようになれば、きっと、皆さんも人から愛される人になれると思います。

マーケティングでは、「売れるモノづくり」とか「売れる仕組みづくり」を学びます。これは、人にも適用される考え方だと私は思っているので、学生の皆さんには是非とも学修してもらいたい科目であると常日頃思っています。「売れる物を作ろう」と思ったときには、自分自身の、(あるいは)企業の持っている技術力や資質など

をしっかりと見極めて、そして売りたいと思っている人を観察し、その人のニーズを把握し、どのような商品にしていくのかとか、どのように伝えていくのかを考える学問になりますが、自分自身に置き換えてみたらどうでしょう。自分には、いったいどういう強みがあって、どういう弱みを持っているかを把握することも生き抜く上では大切です。では、それをどういう風に変えていけば、より、なりたい自分になることができるのか。そして、それを相手に知ってもらおうと思ったら、どのようなコミュニケーションで正確に伝えていけばいいのか。モノや仕組みを自分自身に置き換えてマーケティングというものを考えていくと、なりたい自分になり、これからの人生を豊かにしてくれるのではないかと思っています。

皆さんに奨励したいことのひとつとして、「意識を持つことの重要性」をお伝えしました。今までお話ししてきたことを、しっかりと意識をして過ごすかどうかで、実現することができるかどうかにか大きく関わってきます。

それでは、最後にマザー・テレサの言葉をご紹介します。締めくくりたいと思いま

(すぎうら れいこ 商学部准教授 2018.9.20 カレッジアワー奨励)

す。キリスト教に関する講義などで、紹介されている言葉かもしれませんが、ゆっくりと読み上げさせていただきます。

「思考に気をつけなさい、それはいつか言葉になるから。言葉に気をつけなさい、それはいつか行動になるから。行動に気をつけなさい、それはいつか習慣になるから。習慣に気をつけなさい、それはいつか性格になるから。性格に気をつけなさい、それはいつか運命になるから」

学生の皆さんを対象に本日はお話をしてきましたが、50歳を目前にした私でも、人間関係であったりとか、仕事のことであったりとか、家庭のことであったりとか、大なり小なり、乗り越えたいと思うことを抱えています。いつまで経っても、人は目の前の壁を一つずつ越えていくことで、きっと死ぬまで成長し続けるのだと思っております。その壁はきっと乗り越えられると思いますし、自分一人ではなく、周りにいる人たちが、きっと手を差し伸べてくださると思いますので、色々な人と関わりながら、なりたい自分になり、歩みたい道を歩んで、そして幸せになってくれることを祈りまして、奨励のお話とさせていただきますと思います。

科学の革新と信念

吉田 淳

学生の皆さんは、高校・中学校の時、理科の授業はどうでしたか？恐らく、結構難しいなあ、嫌いだ、つまらないと思われた方々も多いと思います。21世紀に入ってから、もう少しで20年が経つわけですが、私たちが、科学技術というものの発展の中で、様々なものを得てきています。たとえば、今、スマホというものがあります。スマホというものができて、これがかれこれ10年ぐらいかと思うわけですが、解説書や仕様書が無くても使える、使いこなしていることは、すごく素晴らしいことだなあと感じます。やはりもう一つ大事なことがある。現在まで科学というものが発展してきた中で、様々な難しさと言うものを感じてきたんじゃないかなと思っています。

今日は、4つのお話を簡単にしていきたいと思います。科学の始まりというのは、どのようなことであったかということをお話します。それから、人の営みとはどんなことか。これは、科学の歴史ということと、宗教というのはどんな意味で対立したり融和したりしたのかということ。最後に私の方から、こんなことを考えてほしい、こんなことを思っほしいということをお話ししたいと思います。

最初に、科学っていうものを考えてみたときに、科学が生まれる前の時代というのはどういうものだったのかを思い返してみたい。科学が科学らしくなってきたのは、実は15世紀、16世紀、中世と言われる頃の時代に始まった。基本的に多くの方々は、これはキリスト教の考えとは相容れないものであり、「この世界は神が作った、創造したものだ」という風に考えられてきた時代でございます。今でも、心の中、気持ちの中ではそういう風に感じている人が実はすごく多いということがあります。

科学の始まりにおいて、こんなことが行われました。「神さまがこの世界を作ったというならば、その中には美しい法則がある」ということを考えた人がいる。科学を最初に考えた人は、その法則を明らかにしようとするのが、すなわち、神が作った世界をより深く知ってということが、科学に繋がっていくわけですが、神の行ったことをより明らかにしていくことを私たちは求めてきたということです。

簡単に言えば、この星の動きには規則性があります。太陽は毎日、東から昇り西に沈んでいく。月も規則的に満ち欠けを繰り返しています。このような規則正しい

ものは、実は神が作ったものだというように考えられていたわけですから、その中に何らかの法則があるだろうということより鮮明にしていきたいということだったんです。ですから、ここでは宇宙の話をしませんが、科学の始まりは、実は真理を追究すること、イコール、「神の素晴らしさを理解し、近づくこと」だということによって始まってまいりました。

皆さんこういう話をすると、科学というのは非常に難しいと思っていたけれども、実は人間として人がどのように考えていたのかということにつながっているのです。たとえば、人の生き方、人の営みがどうしてきたのかというのとイコールとして考えた方が良いのかもしれないのです。

私は、たまたま今朝は、神社に行ってお祈りをしてきたんですけども、それも人の生き方、人の考え方というものを導いてくれたのかなと思います。これは非常に便利な考え方でして、チャペルの中ではキリスト教の信じ方、それから今日は、朝は神社に行ってお祈りをしてきたんですけども、それをお寺に行ってお祈りをしてきたんですけども、これは、どんな根拠があって、というよりも、人の信じ方というものを学ぶものです。古代ギリシャ時代に、哲学が生まれ、人の生き方(人間の営み)を論じた。あらゆる宗教では、「人の生き方」を導いてきた。それに対して、科学というのは、今でも経験主義的に自

然現象を考察してきた。ひょっとしたらという発見や発明を期待してきた。現代では、多くの人々から「科学」は「人間の営み」から一番距離がある存在になっているという捉え方をしているのではないのでしょうか。

科学というものを発展させてくる中では、どんなことが行われてきたのかというと、科学の特徴である「客観性」とか、「論理性」というようなものが重視されるようになった。この始まりは、実は中世から行われてきたということでもあります。

人の主観的な考え方というのも、大事だと思うんですけども、事実に基づいた推論というようなものを発展させたのは科学の始まりですし、科学らしさというものを追究していくことが、科学を最も大事にしてきたものであります。

しかしいざいざにしても、人が行く、人が考えてそして進めていくことですので、何らかの正しいこともあれば、間違っていることも出てくるということでもあります。その中に、いわゆる矛盾というものが生じているのではないかなと思います。

典型的な例が、実は、天文の中にあります。先ほど、太陽や月の動きの話をしたけれども、基本的には、地球と言うものが中心で、その周りに太陽や星が回るという考え方が、中世まで伝わってきました。それに「ちょっと待って、それはおかしいぞ」という考え方を唱えた最初の人物が、ポーランドの16世紀ごろに活躍したコペルニクスという方です。コペルニク

スは、実は聖職者だと言われています。地球を中心に太陽や月が回っているという考え方から、いや、太陽が万物の中心で動かず、地球が太陽の周りを回転し、地球も1日1回転しているんだ、という考え方、これを「地動説」と言うんですけども、そういうものを主張してまいりました。

その時には、聖職者であるということもありますし、それほどクローズアップされなかったかと思いますが、約100年後、ガリレオ・ガリレイという、これも、天文学者の方、2人とも天文学者なんですけれども、ちょうど望遠鏡というものが発明され、木星の観察をしている中で、どうも「大きな星の周りに小さな星が回る」というのが本来の姿なんだということで、このコペルニクスの地動説を支持してまいりました。その中で、これは有名な話ですけども、宗教裁判が行われ、そして、この考え方は異端とされ、弾圧を受けたという時代がございます。これはおよそ17世紀初めから17世紀の後半ごろにかけて続くということがありました。

もう一つ重要なトピックがあります。それは、チャールズ・ダーウィンの考え方です。チャールズ・ダーウィンはイギリスの生物学者なんですけれども、1800年の頃頃から後半にかけて活躍した方です。ちょうどガリレオ・ガリレイとは200年ぐらいの時間の隔りがあるわけですけども、チャールズ・ダーウィンは、こんなことをやりました。世界を旅して、特にガラパゴス諸島を旅して、様々な

種の違いというものを見出した。これは、どうしてこんなに違うんだらうかということ考えた人です。全ての生物の種というものは、ひょっとしたら共通の祖先から時間をかけて、自然選択的に、そのプロセスの中で進歩してきた。要するに、生物は進化して様々な生物ができてきたということでもあります。その中で、多くのものが淘汰されてきたということにもなります。そして現代に残っている種というものは、それなりの進化を遂げてきたから生き残ってきたのでしょ。

1859年にチャールズ・ダーウィンは『種の起源』というものを発表いたしました。生物の多様性というものがあるのか、いわゆる「進化論」というのを作って、そこで「種の起源」と言われる考え方ですけども、人というのは類人猿と共通の祖先を持ってそれぞれに進化をしてきた。具体的に、NHKテレビで放送されていましたが、人類の誕生というのが、なぜ二足歩行をするようになったのか、そして実は今から2～3万年前でしょうか、ネアンデルタール人というのと、いわゆるホモサピエンスが同時にいた時代があり、そういう中で、人間は実はホモサピエンス…、ネアンデルタール人というのはすごく大きな体をしていただけですけども、ひ弱なホモサピエンスの方が生き残った、小さなホモサピエンスの方が仲間を作って生活することができ、そのときコミュニケーションの力がより進化してきたと言うことが最近の研究の中で明らかにされたわけですね。

しかし、その進化論という考え方は、私たち(日本人)は素直に受け入れてしまうことがあるんですけれども、私は、20年ほど前にアメリカに行って思ったことがあるんですが、アメリカでは、実は、進化論を学習しない、教えていないというところが多いことがわかりました。何故かという、アメリカの場合は、キリスト教の考え方が非常に強く、教えることはキリスト教の教義に反するという考え方があって、約50%以上の方は、進化論を否定しているからです。

このように、私たちは科学的に推論したことと、それから私たちが何を信じたらいいかということ、違いがあるということ、これを認識する必要があります。恐らく高校生のときに生物学を学んできた人たちは、進化論というのは当たり前だと思っていられるかもしれませんが、それは、生物学の学習の中では真理として学んできて、自分自身の信念として、本当の心の中で何を思っているかということが実は凄く大事なんだということであり、アメリカの友人に聞きました、進化論についてどのようにとらえているかと。そうしたら、「進化論は正しい。でも、自分の考え、自分の信条は変わらない」という答えでした。そうすると、私たちは二つの考え方に自分以外の考えと自分自身の考えを関連づけて深めていくのが大事なんだなということを感じてもらってほしい。このように人の考えというものは、それぞれ深さがあり、そ

して、その背景にあるのが自分の信念の重要さと思います。

最後に、これは私も含めてということですが、これから生きて行くためには、何を信じ、どのように行動すべきかということはどうしても、どこかに頼っていく必要があるのではないかなと思います。先ほどスマートフォンの話をしましたけれども、今後、様々な科学技術の発展があると思います。もっと私たちが心配しているのは、いわゆるコンピュータの技術ですが、AIの技術が発展をしてきましたけれども、現在の仕事の約半数はロボットがすることになると言われています。とすると、人がすべき、人が考えていくことはどんなことなのか、そして、何を信じ、どのように判断したらいいのかということが大事です。大学生、特に、1年生・2年生の人たちは、自分がこれから何を信じ、自分が価値判断をする力を自分で作っていかなくてはなりません。科学はこれから進歩していきます。しかし、人の心を科学が乗り越えることは恐らくできないんじゃないかなと思っています。ただ、自分がさまざまな場面で何らかの問題や課題にぶつかったとき、自分の信念から価値判断していると思ってるんじゃないかという推測はできます。

21世紀に入り、この世界の中には様々な問題や課題が出てきています。日本は人口減少になっていますけれども、世界は、益々人口が増えていきます。それに

伴って、食料や資源というものが不足してまいります。その中に、環境の問題やエネルギーの問題は、食糧や資源の不足、格差の拡大など、多くの国の中では、様々な困難が待ち受けていると思います。現在の日本は正直、大変恵まれているのではないかなと思っています。非常に、そういう点では、比較的平等で格差が少ないと言われています。世界には本当に多くの格差があります。毎日食べる物、医療というものも差があります。私たちは、この恵まれている時代、恵まれている世の中がどれだけ続くかは分からないけれども、一つは科学技術の進歩が解決してくれる部分があるかもしれません。しかし、それでも解決できない多くの課題や問題が世の中に山積しているんです。人類のこれからの100年、あるいはそれからの100年というものを考えてみますと、私は、人にはどんなことが幸福なんだろう、幸せなんだろうと考える、そして人がどのように助け合っていくのかということが大事な要素です。科学技術は物質的な豊かさを支えることができても、心の問題、人と人が支えあう問題というものまでは立ち向かうことができないのではないかなと思っています。まず、自分の中にいかに客観的で論理的な考え方があるかもしれません。しかし、その考え方の中に、自分と

いうものが中心にありながら、家族であり、そして、その地域の人たちであり、それから、日本という国には、日本という国のことを考える。そして目を向けていただきたいのは、アジアという諸国の中で、どんな国があるのか、そしてもっと広く、世界地域全体の中で、何を考え、行動したらいいのかなと考えることが、これから重要な課題になっていくのではないかなと思っています。

大学生である皆さんは、まだこれから大人としての社会での入口に立っています。大学生、あるいは大学を卒業してからも良いんですけれども、これから様々な学習をし、更にそれを深め、そして経験を深めていくことで、広く未来を見据えて自分たちの力で未来を拓いて行っていただきたいなと思います。科学は、それを支える一つの方法でしかありません。最後は自分たちの心、精神や人としての生き方なのです。私の経験の中でもそういうことを感じることはたくさんあります。どんな分野や、どんなアプローチでもいいですが、自分を高め、そして支え、そして人に協力していくという大切さを忘れないでいただきたいと思います。これが未来に対する皆さんの生き方に繋がる価値観になると思います。

(よしだ あつし スポーツ健康学部教授 2018.6.1 瀬戸カレッジアワー奨励)

しかし、回り込まれてしまった！（・・；）

柳 本 伸 良

主は言われた。「わたしは、エジプトにいるわたしの民の苦しみをつぶさに見、追い使う者のゆえに叫ぶ彼らの叫び声を聞き、その痛みを知った。それゆえ、わたしは降って行き、エジプト人の手から彼らを救い出し、この国から、広々としたすばらしい土地、乳と蜜の流れる土地、カナン人、ヘト人、アモリ人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人の住む所へ彼らを導き上る。見よ、イスラエルの人々の叫び声が、今、わたしのもとに届いた。また、エジプト人が彼らを圧迫する有様を見た。今、行きなさい。わたしはあなたをファラオのもとに遣わす。わが民イスラエルの人々をエジプトから連れ出すのだ。」モーセは神に言った。「わたしは何者でしょう。どうして、ファラオのもとに行き、しかもイスラエルの人々をエジプトから導き出さねばならないのですか。」神は言われた。「わたしは必ずあなたと共にいる。このことこそ、わたしがあなたを遣わすしるしである。あなたが民をエジプトから導き出したとき、あなたたちはこの山で神に仕える。」

（旧約聖書 出エジプト記 3章7～12節）

【切実な願い】

「この世の中に変わってほしい。」そう願ったことがある人は、ここにも大勢いるでしょう。もっと優しい世の中に、もっと公平な世の中に、もっと生きやすい世の中に、世界が変わってくればいいのに……私自身、何度そう思ったか分かりません。奨学金という名の膨らんだ借金、将来もらえるか分からない国民年金、子持ちの友人を悩ませる待機児童、親友をボロボロにしたセクシャルハラスメント……変わってほしいと願うことばかりです。

来週、名古屋学院大学では「レイン

ボーウィーク」に入ります。レズビアンにゲイ、バイセクシュアルにトランスジェンダー、あるいはそれらに当てはまらない性的少数者の人たち……今まで差別を受けてきたみんなが、抑圧されることなく、生きやすい世の中を実現する……そんな願いを込めたキャンペーンです。このチャペルで歌う賛美歌480番も、その趣旨に合わせて選ばれました。

残念ながら、キリスト教会の中には、今も性的少数者を圧迫し続け、差別的暴力的な言動を繰り返しているところもあります。同じキリスト教を信じている者とし

て、ぜひ神様には、この状況を変えてほしいと切実に祈っています。しかし、私の願いを聞いた神様が、こう返してきたら話は変わります。「あなたの願いはよく分かった。さあ、世の中を変えに行きなさい！」

ちょっと待ってください……あなたがやってくれるわけじゃないんですか？それなら話は別です！今のままで構いません。世の中に変わってほしいとは言いましたが、そのために私が苦労を背負い込むのはごめんです。牧師が政治的発言なんてしたら、教会の内部からも外からも、批判や非難が飛んでくるでしょう。仲良くしているクリスチャンとも、あるいは喧嘩になるかもしれません。

尊敬するある方が、同性愛であると自分だけが知っていたとき、周りにいる同期の人たちは、男同士の恋愛をネタに笑っていました。私も一緒にゴゴチなく笑いました。そこで「笑っていい話じゃない」と怒る度胸はありませんでした。世の中を変えるどころか、内輪の小さなグループさえ変える力を持ちません……変えようとすれば孤独になるでしょう。自分も嫌な目に遭うでしょう。きっと私よりも経験豊富で心の強い人間が、この世の中を変えていくべきなのです！ところが、そうは問屋が卸しません。

多くの方が神様に「この苦しい状況を変えてください」と願ってきました。そして多くの人に神様は「分かった、私とあなたと共にいる。今、行きなさい。」そう命じってきました。ほとんどの人が言いました。「いえ、私ではなく別の人を遣わしてください。世の中を変えるのは私ではありません。私は弱者です。気が弱いのです。周りを動かすような力はありません！」

【モーセの抵抗】

先ほど読んだ出エジプト記にも、その

シーンが出てきました。エジプトで奴隷となっていたイスラエルの民が、「こんな世の中嫌だ！」と神様に助けを求めたとき、彼らの一人であるモーセに向かって、神様が語ります。「今、行きなさい。わたしはあなたをファラオのもとに遣わす。わが民イスラエルの人々をエジプトから連れ出すのだ。」……慌ててモーセは言います。「なぜ私が？私なんか民を率いようとしても、『お前なんか神が現れるはずがない』とみんな言うでしょう。」

ところが神様はどこ吹く風です。「大丈夫、できるできる」とモーセに無茶振りを続けます。「いえいえ神様、みんなが私を信用するはずありません。」すると神様は返します。「それなら、あなたに奇跡を起こさせよう。民の前でそれを見せたら、みんなあなたを信じるだろう。」……だんだん追い詰められてきました。モーセは泣きついて抵抗します。「ああ、主よ。私は口下手で、話すのが得意じゃありません。みんなの前であなたのことを話せません。」

そう……話せるわけがありません。「みんなでエジプトを出ていこう」なんて言ったら、こう返されるに決まっています。「失敗したらどうするんだ！もっとひどい状況になったらどうするんだ！お前が責任取れるのか？」この世を変えるために行動すれば、だいたい仲間から抵抗を受けるのです。俺を巻き込むなどと言われるのです。

理不尽な校則を変えようとして署名を集めようとすれば、同じ生徒から「私の名前を使わないで！」と言われます。友だちのセクハラ被害を訴えに行けば、相談を聞いてくれた先生から「将来のことを考えておごとはするな」と言われます。モーセの返答はとても自然です。仲間がどう反応するか、容易に想像できるのですから。

しかし、神様は話を聞いてくれません。「人間の口を造ったのも、耳を造ったのも私じゃないか。行きなさい。私がある人と共にいて、語るべきことを教えよう。」……神様、そういうことじゃないんです。私は怖いのです。仲間が離れていくこと、敵になること、常識を振りかざされること、どれも耐えられません。私は孤独になりたくありません！

モーセは言いました。「ああ主よ。どうぞ誰か他の人を見つけてお遣わしてください。」……神様から、自分の心に与えられた良心に呼びかけられたとき、同じように答えた人がいるはずです。頼むから私じゃない人に！……と。ここにいる皆さんはどうでしょう？教員の皆さん、どうでしょう？職員会議で言うべきことを、自分以外の人が言ってくれと願ったことではないでしょうか。「レインボーウィーク」と言いながら、本当にこの手の相談が来たら、自分じゃなくて別の人に対応させようと思っていないでしょうか？

学生の皆さん、どうでしょう？私じゃない、誰か別の人があの人を正してくれないかと期待したことがないでしょうか？モーセが抵抗したように、私たちも抵抗します。この世が変わることを願いながら、自分がこの世を変える人にはならないように……モーセは4回、あるいは5回にわたって神様に逆らいました。これだけ逆らえば、さすがに諦めてくれるだろう。別の人を遣わすだろう。いい加減逃れられるだろう。そう思っていたかもしれません。

【回り込む神様】

しかし……逃げ切ったと思って前を見ると、既に回り込まれていました！神様は「他の人に」と粘るモーセに、これ以上口実を与えません。「あなたにはアロンと

いう兄弟がいるじゃないか。私は彼が雄弁なことを知っている。彼と一緒に行きなさい。私はあなたの口と共にあり、また彼の口と共にあって、なすべきことを教えよう。」

もう、断る理由がなくなってしまいました。孤独になりたくないモーセに、神様は「私がある人と共にいる」と言い続け、本当に一緒に行く人を与えるのです。彼は世の中を、イスラエルの現状を変えるため、出発していきます。

性的少数者の人々が、男と女で括れない自分たちのような多様性を拒む世の中を変えるため、昔から使ってきた象徴がありました。それが虹の色、レインボーカラーです。最近では、これを身につけることにためらいを覚える人は、さほどいないと思います。しかし、少し前まで全く違う状況でした。虹色のリングが、LGBTの連帯を表す象徴だと知っている人は、そんなに多くありませんでした。だからと言って、これを身につけるのが簡単なわけではありません。

もし、知っている人が見たら「お前はゲイなのか」と弄られるかもしれない。「私にそんな趣味はないの」と、友人が離れていくかもしれない。オープンにしていなかった自分の性自認を、周りに知られてしまうかもしれない……それでも、この世に訴えたい。私たちが生きやすい世の中を実現したい。

虹色のアクセを身につけたとき、心の中はドキドキでいっぱいです。すれ違う人からどんな目で見られるのか、恐ろしくてたまりません。広い広い世界の中で、たった一人、孤独な戦いをしている気分です。

しかし、ふと目の前に立ち止まった人を見ると、そこには、同じレインボーカラーのリストバンドをつけた人が、黙って自分の手首を見せています。電車の中

で、街角で、自分と一緒に遣わされた、新しい世の中を作る人が、少しずつ、少しずつ見えていきました。

神様は、モーセにアロンを、バラクにデボラを、パウロにテモテを送りました。孤独を恐れ、自信をなくしている私たちに、一緒に行く人を与えました。変わってほしい世の中を実現しようとすれば、私たちは一人きりに、孤独に戦っていくしかないように感じます。しかし、違うのです。神様は言われます。「私がある人と共にいる。」……その言葉は、あなたと一緒に行く人を伴って、思ってもみなかった変化をもたらししていくのです。

口下手で自信のなかったモーセは、人前でアロンだけに語らせることはありませんでした。むしろ、雄弁なアロンが人々に語るより、モーセが直接語ったことの方が、ずっとずっと多かったのです。彼自身が心配したように、確かに、イスラエルの民は次々と不満を言ってきました。失敗を恐れ、何か困難が訪れるとすぐ「お前が我々を連れ出したから」と責めました。しかし、モーセは倒れませんでした。神様に愚痴りながら、すがりつきながら、イスラエルの人々を約束の地、新しい土地へとたどり着かせたのです。

【さあ行きなさい】

「新しい時を目指し、この世を変えるために、招きにこたえ、歩き出そう」……聖書の言葉と共に、賛美歌の歌詞が、私たちにこう促してきます。皆さんの周りには、変わってほしい現実、変えなければならぬ問題が、きっとそれぞれにあるでしょう。既に一人で、もがいている人がいるでしょう。目の前の問題に踏み込めない人、「なぜ私が……」と困り果てている

(やなぎもと のぶよし 日本キリスト教団 華陽教会牧師 2018.9.18 チャペルアワー奨励)

人がいるでしょう。

神様はあなたに言われます。「行きなさい、私がある人と共にいる。」……そして皆さんを、今日このチャペルへ招きました。共に行く人を与えるために、私と、私を招いてくださった先生と、キリスト教センターのみんながいるこの所へ、あなたがた一人一人を招きました。

この後、私はしばらくチャペルにいます。私が帰った後も、キリスト教センターには、皆さんの話を聞いてくれる先生方がいます。教員の皆さんも、私やここにいる仲間が、相談する助け手として与えられています。正直、みんなドキドキしているでしょう。問題を解決できる自信は、私を含め、誰一人としてないでしょう。しかし、共におられる神様は、口下手なモーセに変化をもたらししたように、力のない人間を新しくし、皆さん一人一人が変えた世の中を実現します。

さあ、新しい時を目指しましょう。この世の中を変えに行きましょう。私にも、皆さんにも、このチャペルを出るとき語られるのは一つだけです。「さあ、行きなさい。」

【お祈り】

愛と平和の主である、私たちの神様。傷つき、悩み、疲れ果てているこの人に、あなたが共にいてください。

一緒に行く人を与えてください。私を、彼を、彼女を遣わしてください。あなたのもたらす変化によって、この世を新しくしてください。

主イエス・キリストのお名前によって祈ります。

アーメン。